



# いづみ

No.40

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 10



《the Midnight Circus》

浅井 憲一

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 10 作者の言葉

2009 年、東京・六本木のストライプハウス・ギャラリーの企画展で制作した作品です。

無数の小さな箱が昆虫のような足を出して動き回り、また、箱に戻る。そんなイメージで、空間それ自体が動くような作品になればと思い制作しました。その後、2010 年春に、音威子府のアトリエ 3 モア、そして 2011 年夏、札幌のギャラリー・創でも展示しました。（浅井憲二）

タイトル：「the Midnight Circus」

設置場所：作者所蔵

制作年：2009 年

素材：鉄

サイズ：

## 連載 宮の森の四季 10

## 本郷新記念札幌彫刻美術館

### 三角山小学校の児童

職員 松島 幸和

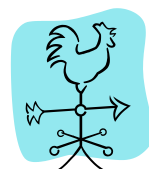
昨年3月の初めのことです。近くの三角山小学校の6年生が、小学校での最後の授業ということで、当館を訪ねて来ました。総合学習の一環として、3年生の時たびたび訪れており、今回、小学校を卒業するに当たって再度訪ねて来たというわけです。当館へのお礼のセレモニーもあるとのことで、初めて立ち会う私にとって、どうなるか楽しみでありました。

一通り展覧会を見終わったあと、私たちの前で数人の児童が、本郷新の作品で好きな作品、見方について発表しました。その後、合唱で卒業式のテーマ曲「君の笑顔が好きだから」を聴かせてくれました。この種の歌声に弱い筆者はウルウル。「これがあるから教員生活36年…」と教員経験が豊富な館長。然り、私はうなづきました。

ところでこの光景、決して派手ではありませんが、本郷新の作品とこの美術館がしっかりと子ども心に印象付けられたためと信じております。これもまた、当館のミッションであると思っているが故であります。

このことは、当館が本郷新という作家に特化した美術館だから、そして開館して30年という年月がもたらしたものでもありましょう。また、この宮の森という住宅地に位置しているロケーションがもたらした結果とも言えるかもしれません。

これらのことを踏まえながら、地道に、しかも着実に今日も美術館は歩み続けます。



## ちえりあと彫刻

前川 公美夫

(財団法人札幌市生涯学習振興財団理事長)

札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」の1階、メディアプラザにある視聴覚センターは、2万9千点を数える映像および音楽ソフトの供用などのほか、「デジタルアーカイブス」のサービスも行っている。所有する自主制作の教材映像ソフトをインターネットで見ることができるようにしたサイトである。

この春、新作7本が加わって、作品は総計180本となった。そのうち「図工・美術」の9本は多くが野外彫刻をテーマとした作品で、札幌彫刻美術館友の会に毎年のように制作していただき、充実が図られている。

野外作品のほかにも市民が彫刻に触れることのできる場所は美術館やビルのロビーなどあちこちにあり、ちえりあもそうした場のひとつである。

12年前の開館時、「時」をテーマにした9人のアーティストの作品が館内各所に設置された。平面作品や写真、フロタージュ、<sup>どんちよう</sup>緞帳もある中、彫刻では伊藤隆道さんの「むかう・時間・みらい」が南側のサンクンガーデンに据えられ、深井隆さんの「時空の旅」が北側ロビー吹き抜けの2階から6階にかけての壁面を彩っている。そして、國松明日香さんの「移ろう月」は、ちえりあホールホワイエ壁面に弧状に並べられている。

一昨年、開館10周年の記念事業を10本開催した中に、國松さんによる「ちえりあアーティスト『10年前の私と今』」という催しがあった。1階のミニギャラリーにはほかの作品も展示し、会期中の1日、作品を前にして國松さんが10年間の制作ぶりを話すという企画で、熱心なファンが集まった。

下打ち合わせでホールホワイエに入った時、國松さんが「うーん」とうなった。作品「移ろう月」は白い壁面の上部に取り付けられ、下部には客席入口があるだけの造りだったはずなのに、入口ドアの脇に場内案内が貼られ、雰囲気は損ねていたのだった。指摘を受けて場内案内を別の場所に移したら、壁面がすっきりした。

「移ろう月」はホワイエで見上げるのもいいのだが、誰でもいつでも入れる場所ではない。でも、中の照明がともされているときに北側2階のテラスに設けられた窓から覗き込むと、月の満ち欠けの移ろいがコマ送りのように見えて味わいがある。見るタイミングを合わせるのは難しいのだが、私の“お宝”アングルである。

## 人と環境を繋ぐもの

### 伊達 昌広

(一級建築士事務所伊達計画所代表取締役)

先日、しばらくぶりに洞爺湖町の「洞爺湖芸術館」にメンテナンスを兼ねて顔を出してきました。

砂沢ビッキと洞爺湖国際ビエンナーレの作品が並ぶこの芸術館は旧洞爺村役場庁舎を改築して平成20年4月に出来ました。全道でも珍しい町民の寄付によって運営管理されている町民主体型の美術館で、町民に愛されるアート空間がここに根付いています。

さて、札幌の街中にあるビルディングですが、そこには必ずといって良いほどアートワークがあります。しかし、それらはビルの住人にとっては装飾の一部に過ぎません。バブル時代、繁栄のステータスのごとくビルが建ち並び、アートワークもおのずと競争するように飾られていくようになったのでしょう。しかし、すべての作品がそうとは言えませんが、それらのアートも老朽化と経済的な面から取り壊されていく建築とともに消え去っていったものも多いと思います。

時代とともに変わっていくのは仕方ないことですが、建築もアートの世界も、物としてとらえられ、採算性のないものは排除するという合理性が優先される現在において、私は、物として扱われない建築やアート、流行やファッションに流されない空間を提供できないかものかと自問自答する中で建築の設計を行っております。

その中で、私がかかわる「STV北2条ビル」

(札幌市中央区北2西2)には「エントランスアート」と名づけられた空間があります。ここはビルのエントランスを利用したギャラリーで、STV興産のご厚意もあって、企業が支えるギャラリーとして成り立っています。ここ

は毎日、出入りする1000人もの人の目に触れる展示空間



であり、出入りする人はおのずと観客となる仕組みです。

ここに来る人たちにとって、(もちろん事務的に仕事を進める合理主義の会社がそこには存在するわけですが)月1回入れ替わる展示作品はいつも新鮮で、働く空間のオアシス的な役目を果たしていると思います。もちろん主催する側にもメリットがあり、アートがあることでビルとしてのイメージアップはもとより、入居率100%で、貸しビルにありがちな、粗雑な使われ方はなくなったと思われます。アートが建築に繋いだ結果だと思っています。

アートのあり方はその場所により異なってはいますが、最後は文化と環境が人を育ててくれるのではないかと思います。

(写真はSTV北2条ビルの「エントランスアート」の 富原加奈子さんの作品、撮影は写真家・並木博夫氏)

## 書き継いだ連載「ギャラリーシリーズ」

### 思い出深い芸術家との出会い

原 典夫(会員)

私が札幌彫刻美術館友の会に入ったのは、平成14年9月。妻の友人であり、「友の会」創立に功績のある斎藤美年子さんに誘われて、栗山の米坂ヒデノリ美術館を巡るバスツアーに私も一緒に参加した。このツアーが大変楽しかったのに感激して、夫婦で入会し、創刊されたばかりの友の会の会報「いずみ」第1号を手にした。

本郷新とも関係の深い彫刻家の「本田明ニギャラリー」が翌15年4月に開設されると、友の会の橋本会長から、私の自宅にも近いので、このギャラリーの訪問記を書いて会報に載せるようにと要請があった。しかし、彫刻については全く素人の私は本当に困ってしまった。何回かギャラリーを訪れ、記録や資料を読み、遺族の近藤泉さんにもお話を伺って書いた600字ほどの原稿が会報第4号に載った。

それ以降、18年7月の第16号までに12回、「ギャラリーシリーズ」として市内にあるギャラリー訪問記を書き続けた。訪問するギャラリーはもっぱら斎藤さんからアドバイスを頂き、時には妻と二人がかりでオーナーや主宰者と面談し、あるいは資料を見て、開設された経緯、展示品や展覧会などの紹介をした。如何せん、美術の専門用語も分からない素人のにわか勉強では、焦点が絞れず、表現も稚拙で、取り上げたギャラリーにも、読まされた読者にも大変申し訳なく、思い出しても汗顔の至りである。

その中で印象深かった方を挙げてみる。まず、「ギャラリー門馬」の門馬よ宇子さんは訪ねた時は83歳だった。油絵を始めたのは50歳ごろ、全道展会員。70歳代後半には

現代抽象美術を指向された。ギャラリーの入り口には、街に出る度に拾ったという鉄屑で作った作品（インスタレーション）があり、芸術にこうした分野もあるのかと驚いた。芸術に対する旺盛な制作意欲とこだわりのなさに感服した。85歳で2人の娘さん（画家と陶芸家）との3人展の願望を果たされた後、亡くなった。

#### 「本田明ニギャラリー」を訪れて

原 典夫 会員

私が住む山鼻地区の閑静な住宅街の一角（中央区南15条西13丁目）に、「本田明ニギャラリー」が本田氏の遺族によって、この4月に開設された。

コンクリート打ち放しの新しい3階建ての建物だが、特別に標識もないのでちょっと見過ごしやすい。よく見ると入り口に *Meiji Honda Gallery* と小さく書かれた表札がある。

中に入るとすぐ展示スペースになり、まず1980年に東京での個展に寄せた本郷新のメッセージが掲げられている。本田明ニのことを最も知る彫刻家の文章で、これには本田明ニの人となりや彼の芸術の本質について触れられているように思われる。

展示スペースは約61㎡で、1・2階の一部吹き抜けのある屋内と屋外の中庭があり、南西に面して明るい開放感のある空間となっている。

1階の吹き抜けには、1979年に旭川の総合体育館前に設置された「スタルヒンよ永遠に」の高さ3米余りのスタルヒンの石膏原型が置かれている。1・2階の展示室には、その時代、時代に制作された木彫、ブロンズ、テラコッタやデッサンなど20数点の代表的な作品が展示されている。ここを管理している近藤泉さん（遺族）によれば、円山のアトリエには200点をこえる作品が収蔵されているので、時には展示品を入れ替え、また中庭にも野外向けの彫刻を展示したいとのことである。

本田明ニは、北海道に根をおろして彫刻活動をしたはじめての彫刻家として、その作品の多くは北海道の自然や生活をモチーフとしているといわれている。

この「本田明ニギャラリー」が遺族や関係者の願いに沿って、未長く札幌市民に愛され、本郷新の札幌彫刻美術館とともに、北海道の彫刻美術文化の振興に大いに寄与されることを願って止みません。

「ギャラリーシリーズ」第1回。まだタイトルがついていなかった。

次は「弥永北海道博物館」の弥永芳子さん。彼女は本郷新と親交があった方だ。お会いした時は85歳だった。現在は90歳を超えているが、元気で活躍されているお姿が最近、新聞で報道されていた。訪ねたのは3月だったが、暖房のない部屋で立ったまま2時間余り、立て板に水のような話しぶりだった。40歳過ぎから始めた北海道の貨幣、砂金、砂白金などの研究と蒐集、話題の豊富さと仕事への情熱に圧倒された。

「ギャラリーシリーズ」のお蔭で、未知の分野である芸術文化について大変勉強させていただき、何人もの芸術をこよなく愛する人生の大先輩にもお会いできて貴重な経験になったと大いに感謝している。

## 2012 年度友の会総会開催

### 「市民の愛蔵彫刻展」など新年度活動計画決める

#### 会則の改定、役員改選も可決

2012年度の友の会総会は5月19日、札幌市民ホール(中央区北1西1)で開かれ、新年度活動計画案、予算案など6議案を可決した。

総会には会員50人が出席、冒頭、橋本信夫会長は「今年は友の会30年の節目の年として美術館を会場



にした愛蔵彫刻展など新しいプログラムを強力に進めたい。草の根に根ざした市民運動を展開しよう」と挨拶した。ついで、議長に永喜多宗雄さんを選出、11年度活動報告案、同決算・監査報告案、12年度活動計画案、同予算案、会則改定案、新役員改選などを原案通り可決した。

新年度予算案では前年度総会で指摘があった備考欄の説明を詳細に記載したほか、外部からの助成金を得て行う活動が増えたことからクイズラリーと彫刻企画展に伴う会計を特別会計として計上した。また、会則の変更では会の活動実態に合わせて会員種別の明記、役員の人数、さらに部会の設置なども盛り込んだ。

本年度は役員の改選期にあたり、役員数を是正するとともに新役員として副会長に奥井登代さん、新たな幹事に古田重雄さん、斎藤ミサヲさんを選出した。

### 物の見方と芸術的価値

#### 北村清彦北大教授が講演

総会修了後、引き続き講演会が開かれ、北大大学院文学研究科の北村清彦教授(思想文化学専攻)が「記憶と忘却—芸術的モニュメントの現在性」と題して講演を行った。

北村教授は19世紀の美術史家、アロイス・リーグル(1858—1905年)の代表的著作「末期ローマの美術工芸」などを引き合いに、それぞれの時代の独自のものの見方によって芸術価値が決まるもので、たとえば芸術の森野外彫刻の砂沢ビッキの作品が経年で倒壊しても、それをどのような立場で考え、価値付けをするかによってその保存方法も違って来るなどと芸術作品保存の難しさを指摘した。



## 友の会会則一部改定

### 活動実態に合わせて

新年度総会で友の会の会則改定案が提案され、原案通り可決した。

会則改定は昨年の総会で活動の実態に合わせた見直しを指摘されていたもので、会の目的、会員と会費、役員数などの条項を一部手直した。

主な改正点は①目的を会の自立的活動を前面にうたった②永年会員制度の廃止時期を明示した③会員の種別ごとの会費を明確にした④役員のうち、幹事、監査の数を減らした⑤活動基盤としての委員会を部会に改めた一など。会則の改訂版を別途、全会員に配布する予定。

## 2012 年度役員決定

(任期2年、○印は新役員)

|        |       |
|--------|-------|
| 会 長    | 橋本信夫  |
| 副会長    | 大内 和  |
| 同      | ○奥井登代 |
| 幹 事    |       |
| 松原安男   | 長峯慰子  |
| 猪股岩生   | 細川房子  |
| 石川博司   | 高橋淑子  |
| 久本由美子  | 常田益代  |
| 岩崎恵美子  | ○古田重雄 |
| ○斎藤ミサヲ |       |
| 監 査    | 吉田修子  |

## 成功させよう！友の会企画展

## 「市民の愛蔵彫刻展」開会迫る

## 準備ラストスパートへ

友の会の今年最大の主催行事となる30周年記念企画展「市民の愛蔵彫刻展」の準備が8月29日開会に向けて順調に進んでいる。

彫刻家の國松明日香さん、画廊経営の大井恵子さんらを実行委員に迎え、さらに、会場となる本郷新記念札幌彫刻美術館の樋泉綾子学芸員、梅内親治業務係長にも相談役になってもらい、展示作品選び、関連イベントの検討、協力機関への後援依頼、PRパンフの作成など山積する仕事に取り組んでいる。

展示作品はほぼ50数点になる見込みで、近く専門業者に委託して作品の搬入方法、展示レイアウトなどを決める。

会期は8月29日から9月2日までの短期間だが、多くの会員の協力、支援が望まれている。

## 「キタラあらかると」に協力

## 彫刻クイズを出題

桜があつという間に満開となったゴールデンウィークの5月3日から5日までの3日間、中島公園で催された「キタラあらかると」に彫刻友の会が参加、彫刻クイズを解きながらのウォーク・ラリーに一役買った。

キタラの要請で友の会が参加するのは昨年に続き2回目。子供たちにもっと気軽に音楽に親しみ、中島公園を楽しんでもらおうという行事。友の会が出した音楽が聞



こえてきそうな彫刻を探す問題では雨の中、「笛を吹く少女像」(山内壮夫作)を確かめに行く子供もいて友の会員が解説するシーンも見られた。

## 中島公園クリーン鴨々川清掃に参加

## 《森の歌》像など洗い流す

鴨々川を清流にする会主催の第22回クリーン鴨々川清掃運動が6月3日行われ、友の会が主導して中島公園内の《森の歌》など



を清掃した。

中でも高さが7メートルほどある《森の歌》像では、ビルメンテナンスの

専門家の指導で南警察署の若い警官6人がはしごで高所に上り、高圧洗浄機で頂上部分の鳥の糞を洗い流して、作業を見上げる人たちから思わず拍手が沸きあがっていた。

## 今年もやります彫刻清掃

## 延べ18カ所で計画

ここ数年、外部からの依頼なども相次ぐ友の会の野外彫刻清掃作業だが、ことしも延べ18カ所で彫刻の保全活動に取り組む。

すでに中島公園キタラ前の《相響》の清掃をはじめ、真駒内第一公園、ダン記念公園、クリーン鴨々川清掃運動での《森の歌》など立て続けに作業をこなすなど意欲的。この勢いで夏から秋にかけて清掃活動が目白押しになっている。

7月以降の清掃計画は次の通り。▽道庁赤レンガ庁舎前《北の母子像》(7月7日)▽大通公園《花の母子像》(同28日)▽月寒公園《永遠の像》(7下旬)▽道立近代美術館前庭、知事公館前庭《嵐の母子像》《意心帰》(9月5日)▽羊ヶ丘展望台《丘の上のクラーク像》(9月中旬)▽中島公園《森の歌》ほか(9月30日)

## 事務局日誌

▼4月5日＝三役会議(2012年度総会議案書作成準備)▼18日＝彫刻企画展第1回実行委員会(本郷新記念彫刻美術館で出展作品候補選考)▼20日＝4月定例役員会(総会議案、「いずみ」40号編集企画)▼5月3-5日＝「キタラあらかると」へ協力参加。彫刻クイズ実施▼9日＝第2回彫刻企画展実行委員会(出展作品の再検討、展覧会名協議)▼10日＝5月定例役員会(新年度野外彫刻清掃日程協議、総会準備)▼17日＝札幌市文化庁など表敬訪問▼19日＝2012年度友の会総会開催(市民文化ホール、引き続き、北村清彦北大教授講演会)

## 編集後記

▼平成14年(2002年)9月に創刊号を出したこの会報「いずみ」が今号で40号に達した。節目の特集号にはしなかったが、初期から続いた「ギャラリーシリーズ」の執筆者、原典夫さんに思い出を綴ってもらった。取材の苦心がしのばれる。次は50号が節目になる。▼懸案だった「巻頭言」のタイトルを「風見鶏」に変えた。さまざまな分野の人に書いてもらいたい願いを込めた。(大内)

## 札幌彫刻美術館友の会会報

「いずみ」 No.40

2012年7月1日発行

発行人 橋本 信夫  
編集者 大内 和  
011-884-6025  
印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」40号 目次

|                                                                           |     |
|---------------------------------------------------------------------------|-----|
| 自作自選 10 《the Midnight Circus》 浅井憲一                                        | 表紙  |
| 作者の言葉                                                                     | 2   |
| 宮の森の四季 10 「三角山小学校の遠足」 松島幸和                                                | 2   |
| 風見鳥「ちえりあと彫刻」 前川公美夫                                                        | 3   |
| 「人と環境を繋ぐもの」 伊達昌広                                                          | 4   |
| 会報 40 号特別寄稿「書き継いだギャラリーシリーズ」 原典夫                                           | 5   |
| 友の会ニュース                                                                   | 6-7 |
| 2012 年度友の会総会、北村清彦北大教授が講演、愛蔵彫刻展開会迫る、「キタラあらかると」に協力、クリーン鴨々川清掃に参加、今年もやります彫刻清掃 |     |
| 事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか                                                        | 8   |

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

#### ■「となりのひと」展

会期:開催中～8月26日

「北の彫刻展」シリーズを継承する新シリーズ。北海道を拠点に活躍する立体作家を中心に現代的テーマのもとで紹介する。第1回は他者との距離や他者への眼差しをテーマにした絵画や映像作品。

#### ■「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」

会期:8月29日～9月2日

札幌彫刻美術館友の会の主催で市民が日ごろ自宅に秘蔵して楽しんでいる彫刻を公開してもらう市民の手によるユニークな彫刻展。

#### ■「長岐和彦展」

会期:9月5日～9月16日

#### ■「彫刻家たちのルール」

会期:9月22日～11月11日

札幌二中(現札幌西高)に学んだ本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二らの作品を紹介し、その影響関係を探る。札幌西高開校100周年記念事業との連携行事。

### 記念館

#### ■本郷新が愛したコレクション

会期:開催中～9月2日

#### ■本郷新の部屋

会期:9月5日～来年4月14日

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>